

令和7（2025）年度 第3回かしわざきこども大学運営協議会 議事録

- \* 日 時 令和8（2026）年3月12日（木） 午後6時30分～7時30分
- \* 会 場 柏崎市役所 4階 4-4会議室
- \* 出席委員 4名：岸勝巳委員、蓮池純夫委員、岡村美奈子委員、土田由紀委員
- \* 欠席委員 4名：関沢恵委員、片桐秀樹委員、三井田正志委員、村山智恵委員
- \* 事務局 6名 【学校教育課】山之内知行課長、廣田多恵子係長、千原健志副主幹、  
廣田雄大主査  
【商業観光課】土田洸希主事、北村杏奈主事

1 開会 進行：事務局

2 挨拶 会長

2026年になり様々な変化があった。今冬の大雪、2月の選挙、中東情勢の悪化によるガソリン価格の高騰など、これだけ変化に富んだ年は無い。市内の教育に関しては、今日が高校入試の発表日であったが、柏崎市内の受験倍率は非常に低い状況となっている。その原因の1つにもなるだろうが、近年は出生者数の減少が著しく、今年4月の入学児童数は約400人ということで、この6年は毎年約100人ずつ児童数が減少している。

こども大学の事業についても、このような変化がある時代に見合う展開が必要と考える。それが、この運営協議会の1つの意義である。柏崎のシンボルでもある米山が変化しないように、変わらないものも大事にしつつ、この変化に耐える事業を行っていかねばならない。この運営協議会で委員からいただいた意見をいかし、来年度以降も子供たちにとっての糧や宝になるような事業を実施していけると良い。

3 議事 進行：会長

(1) 令和7（2025）年度 事業実施状況について

ア 「自然体験コース」 【事務局】 資料1

今年度、計30の保育園、幼稚園及び特別支援学校から利用いただいた。子供と引率した大人の入場料の一部を本事業で負担し、負担額の合計は186,000円であった。

イ 「エネルギーのまち、柏崎探求コース」 【事務局】 資料2

第2回の会議において口頭で説明しているため、報告書にて確認願いたい。来年度の事業は、INPEXの水素プラント見学を軸として調整していく。

ウ 「柏崎の『水』探求コース」 【事務局】 資料3

当日は天候に恵まれ、全行程を計画通りに実施することができた。前回の協議会において、水と農業との関わりにも触れると良いという意見があったが、当日は上下水道局職員から農業用のダムの話もあった。保護者の関心も高く、このようなダムの見学などは、PTA行事や子ども会の行事などでも利用できると良いという意見があった。

エ 「ものづくりのまち柏崎・歴史探求コース」 【事務局】 資料4

株式会社東芝の工場を見学し、その後、工業団地を経由するバスの中で、講師の方から柏崎のものづくりの歴史などについて解説いただいた。アンケートでは、柏崎で素晴らし

い物を製造していることに驚いたという感想もあり、シビックプライドの醸成という観点でも大切な学びになったと考えている。

企業側も、PRや社会貢献という観点から、積極的に子供たちの受け入れをしたいという意向があることを伺った。今後も、協力してくれる企業の掘起しを行っていく必要がある。

オ 「国際交流コース」 【事務局】 資料5

「クリスマスをつどい」では、ALTが工夫を凝らした英語のゲームや、英語の歌と踊りなどを楽しんだ。保護者も一緒に参加し、子供たちが楽しく英語を学ぶ機会となった。

以前の運営協議会において、「アカデミック」「資格取得」がキーワードとなるような企画ができないかという意見があった。今年は試行的に、英語検定の面接練習としてALTと一緒に学習する機会を11月と2月に設けた。11月と2月で計40人程度の参加があった。今後、この取組をこども大学の事業に組み込めるのではないかと考えており、委員の意見も取り入れながら検討していきたい。

カ 「ドローンプログラミング教室」 【事務局】 資料6

当日は、iPadを使用したプログラミングによってドローンを飛ばした。多少の機材トラブルがあったものの想定内の範疇であり、予定していた内容を実施することができた。

来年度についても、新潟工科大学との協働による事業を検討している。現段階では、新潟工科大学の大学祭において、子供を対象とした科学体験等を行う方向で調整している。南魚沼市と新潟工科大学が、今年度の夏休みに子供のキャンパス体験を実施したが（当日配布資料）、これに近い内容を次年度の学祭で実施するイメージである。次年度、魚沼市の商工会が、同様に学祭で魚沼市の子供たちを受け入れてもらうべく、新潟工科大学と打合せを進めていると聞いている。新潟工科大学として、大学祭でまとめて受け入れることは可能とのことであるため、魚沼市の子供たちと一緒に新潟工科大学で実施する方向で打合せを進めていきたい。

キ 「キャリア教育コース」 【事務局】 資料7

アンケートの結果から、どの生徒も満足度が高く、保護者と先生からも非常に好評であった。生徒たちにとって貴重な体験になったと考えている。

キャリア教育コースについては、今年度で一旦終了とさせていただく。今後は、必要に応じて可能な取組を検討していきたい。

ク 「令和7(2025)年度学校教育活動推進事業」 【事務局】 資料8

今年度は小学校が19校、中学校が11校の計30校で実施した。各校とも総合的な学習、地域体験、食育分野において活動を展開している。基金の減少を踏まえ、新年度の各校への交付額の算定基準について見直しを行った。

－質疑・応答－

【委員】 英検の実技試験対応について、非常にありがたい話である。中学生から高校生になった途端に、コミュニケーションイングリッシュの色が強くなるため、このような市の取組はありがたい。英検が関係するのであれば、高校生まで対象を広げてほしい。

さらに、台湾、韓国、中国、ベトナムなど近くの国の言葉に子供たちが触れる機

会があると良い。英検をスタートとして、さらに発展していけるよう、今後も企画していただきたい。

東芝工場の見学では、クリーンルームに入る体験は非常に貴重なものである。市内企業の中核の場所まで入れられる機会を市が作っていけると、より魅力的な事業になる。

【事務局】 東芝工場では、温度と湿度が管理されたエリアに入れてもらうことができた。防塵着の脱着が必要であったことから見学時間がやや短くなってしまったが、貴重な体験となった。

【委員】 リケンが水素ステーションのオープンイベントを予定している。水素を作るという科学的な内容も、中学生と高校生まで教えられるように展開できるとより良いと考える。

【事務局】 会長の挨拶にあったように、ガソリン価格が高騰していく中、水素が果たす役割や意味も変化していくと考える。市内の様々な組みに注目し、より良い学びとなるようなコースを検討していきたい。

【委員】 ドローンプログラミング教室について、iPad を使用してのプログラミングということだが、端末などは大学が用意したのか。

【事務局】 大学がドローンと iPad をレンタルで調達している。レンタル費用の原資は市からの委託料である。

【委員】 大学の3名で子供たちの対応をしたのか。子供の方が端末の操作が得意かもしれないが、スタッフは足りていたのか。

【事務局】 市の事務局からも3名のスタッフを出して対応した。操作自体、子供はすぐに覚えて取り組んでいた。スタッフは、バッテリー交換や無線接続トラブルなどへの対応が主であった。

【委員】 子供たちが意欲的に取り組む姿が想像でき、今後人気が出ていく分野であると感じた。次年度は、大学祭に出向く予定とのことで、その内容を楽しみにしている。

柏崎の「水」探求コースについて、ダム内部は地元の人でも入る機会が無いいため、見学できたことを羨ましく思う。アンケートの中で、保護者が学びたいという意見や、お金を払ってでもこのような体験をしたいという意見があったことから、満足度が高く好評だったと推察する。この事業は、今年度だけのものか。

【事務局】 柏崎の水道事業90周年に合わせた企画であり、今年度だけの予定である。

【委員】 好評であったことから、継続することも検討していただきたい。また、先ほどの話にも出ていた水素エネルギーにも興味がある。次年度以降のエネルギー事業として、電気エネルギーについても学習の機会を作る予定はあるか。

【事務局】 INPEXの水素プラントを始め、その時々市内の状況に応じて企画しているため、来年度以降については白紙の状態である。エネルギーのまちの学習として、より良い学習の場を関係部署と協議していきたい。

ダムの見学自体は、来年度も上下水道局が実施する予定と聞いている。水のふるさと展示室とさけのふるさと公園は、いつでも見学可能である。

【委員】 令和7年度の事業は、いずれのコースも充実した取組であったことが分かった。基金が減少している中ではあるが、今後も継続していくために工夫していけると良

い。各コースは、委員も参加することができるのか。

【事務局】 参加可能である。

【委員】 自然体験コースの資料1において、大人の参加費負担額が0円の園があるが、なぜ差が出るのか。

【事務局】 各園の体験プログラムが異なるためであり、大人の費用負担が生じるプログラムとそうでないプログラムがある。

【委員】 柏崎の「水」探求コースは多くの参加があり、ニーズがあると考え。より多くの人に参加してもらえるような形で継続することを検討していただきたい。

東芝工場の見学についても、内部まで入る貴重な機会であり、大変有意義なプログラムであったと思う。

今後、英検対応の事業も検討するというので、こども大学の中でも特徴的な取組になるのではないかと考える。寄附された方も納得すると思う。

大学と連携した取組に関して、柏崎市内には2つの大学があるため、両大学と何らかの形で交流ができることを希望する。

(2) かしわざき子ども育成基金 寄附状況について 【事務局】 資料9

東芝エネルギーシステムズ(株)と東芝プラントシステム(株)から、自動販売機の売り上げの一部を毎月の寄附としていただいた。

(3) 令和8(2026)年度実施予定事業について 【事務局】 資料10

昨年10月の運営協議会で説明した内容と基本的には同じであるが、一部、予算額が変わった事業がある。予算額の変更はバスの借上料であり、予算算出のために見積もりを徴取した結果、値上がりしたものである。今後、実施に際して更なる値上がりも想定される。

前年度までの自然体験コースにおいて、全ての保育園・幼稚園・特別支援学校の送迎バスを民間事業者到手配していたが、今後は市が所有するバスも活用する方向で検討している。

学校教育活動推進事業について、交付金算定基準の見直し及び学校統合により、交付金額は例年よりも300,000円程度減額として調整している。

事業費を抑制することで、市の第6次総合計画の終期である令和15(2033)年度までは事業継続できる見通しである。

一 質疑・応答一

【委員】 約400万円を毎年の事業規模とした場合、6年程度で基金が尽きるのではないのか。

【事務局】 庁用車バスの活用や学校教育活動推進事業の調整などにより、一定の支出抑制が可能であること、また、今後続く保証はないが、寄附収入もあることから、事業継続期間を延伸できる見込みである。

【委員】 このように素晴らしい事業を実施しているので、中学生と高校生も含めてより多くの子供が参加できる、恩恵を受けられる環境であれば良いと思う。予算も限られている中だが、1つの提案として、実施した事業の動画配信ができないか。見学先については事業者の制限もあると思うが、実際に参加できなくても、動画を見て興味が湧く子供が出てくると思う。バーチャル映像など、体験しているような感覚が

得られる方法も検討してほしい。動画配信の課題は多くあると思うが、配信することで学習教材や児童クラブなどでも活用できると思う。

現在、小中学校の統合が進んでいる。これまでの地域学習はコミセン単位であったが、統合されることにより学習機会が失われることを心配している。市内のPTAも疑問に思っているのではないか。柏崎市全体を1つの地域とし、どの学校であっても地域を学べる教材として、動画配信を検討してほしい。

【事務局】 リケンでは自社のPRのために、見学を受け入れた様子の動画を作成していると聞いている。現在、こども大学の市ホームページは、PDFで報告書が掲載されているだけであるが、例えば、企業側が作成した動画のリンクを掲載するといったことであれば可能かもしれない。また、上下水道局のダム動画についても、今回の運営協議会での意見を共有させていただく。

【委員】 寄附した方にとっても、柏崎全体の子供に恩恵が届くことで満足度が上がると思う。

【委員】 社会貢献を考えている企業もあるという中、イベントなどの実施報告で動画を掲載する企業もあると聞いているので、企業側に動画の作成などを依頼できないものか。

【事務局】 すでにそうした取組を行っている企業であれば、実現の可能性はあるだろう。また、企業のホームページなどに掲載された動画を手掛かりに、見学などに協力していただける企業の掘起しもできるであろうことから、市内企業の広報活動にも注目していきたい。

#### 4 連絡事項 【事務局】

- (1) 今年度のこども大学の実施報告書は、次年度に作成して委員へ送付する。
- (2) 本日の報酬と費用弁償については、来月21日に振り込み予定である。

#### 5 閉会 学校教育課長

本日の会では、貴重な意見を多くいただいた。限られた予算の中で充実した事業展開をしていることが分かったという意見や、より多くの人へのアピールのための動画配信という具体的なアイデアもいただいた。また、外国語学習や企業との連携についての提案や、2つの大学の活用に関しても意見をいただいた。本日の会議は非常に充実した内容であったと感じている。子供たちを思って、これだけ前向きな意見が出る会議は貴重である。

子供は有能な存在であると思っている。子供たちは、もっと学びたい、もっと知りたい、もっとやってみたい、もっと良くしたいという思いをもっているはずである。私たちの仕事は、そうした子供の思いを後押しする環境を整えることである。また、大人も同様に学びたいという思いを持っているということについても、この会議で気付くことができた。1年間、今年度の事業や来年度の計画などについて慎重に審議していただき、改めて感謝申し上げます。